

外国にルーツを持つ子どもたちの教育に課題を感じている方へ

外国の児童生徒を受け入れる 学校/教師を支援します

日本語がわからない子どもが
入学・編入してきた

子どもが勉強についていけない

保護者も日本語が話せなくて
学校側と意思疎通が難しい

日本人の友達の仲間に入れず
孤立している

○○語を通訳できる人がいない

学校・担任教師はどのように
指導すればよいかわからない

近年、日本の小中学校に入学する外国にルーツを持つ児童生徒の数が増加し、学校現場では多国籍化・多民族化が進むと同時に様々な教育課題に直面しています。

千葉大学インターカルチュラル・スタディセンターでは、外国にルーツを持つ児童生徒を受け入れる学校や教師に対する支援プログラムを提供しており、子どもたちの学校編入時のアセスメントを実施し、それぞれの子どものに適した指導のあり方について学校に助言し、学校現場での受け入れのサポートを行っています。

支援プログラムの内容

多文化教育アドバイザー、日本語支援員、教科学習支援スペシャリスト、教育通訳、異文化間カウンセラーなどの協力を得て、以下のプロセスに沿って子どもの編入前・編入後の支援を行います。

1 学校側との初回打ち合わせ

支援に関する基本方針の確認や、大学側との連携・役割などを確認します。

2 観察・ヒアリングによる査定

- ① 生活・家庭環境や教室での様子と保護者の教育方針等の把握
(児童の観察、児童・保護者への聞き取り)
- ② 学習やコミュニケーションに必要な言語力(日本語・母語)と教科学習の習得状況などの把握



3 初期指導計画の作成

千葉大学側で作成した初期指導の計画をもとに、学校側とミーティングを行い、内容について確認します。

4 初期指導の実施(最大60時間)

- ① 学年に応じた適応指導
(生活指導、日本語指導、学習指導等)
- ② 保護者への支援(母語による支援)
(学校のシステム等の説明、学校適応に向けた支援)



5 学校/教師用の支援プログラムの作成

初期指導の結果をもとに、学校での指導の留意点、具体的指導方法へのアドバイスをまとめた学校/教師用支援プログラムを作成します。

6 学校側へのアドバイス

学校・担任教師へ初期指導の結果報告を行うとともに、家庭での接し方、教室での担任の接し方の留意点、日本語学習・教科学習の内容などについて、支援プログラムに基づき今後の指導のありかたについてアドバイスを行います。

7 定期的・継続支援(最大1年間)

初期指導後もプログラムに基づき継続的に支援します。

- ① 日本語指導への助言
- ② 教科学習指導への助言
- ③ メンタルサポート
- ④ 保護者へのサポート(母語による支援)
- ⑤ 学校・担任へのサポート



<お問合せ> 千葉大学インターカルチュラル・スタディセンター

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

chiba-ics@chiba-u.jp